

平成26年度第2回三宮構想会議

平成26年10月29日

平成26年度 第2回 三宮構想会議

1 日時 平成26年10月29日（水） 午前10時～12時

2 場所 神戸市役所1号館14階大会議室

3 出席者

【委員（22人）】

（1）地元組織代表

小 田 俱 義	久 野 茂 樹
菰 池 将 祥	土 井 一 三
永 田 耕 一	古 川 勝
松 下 秀 司	

（2）交通事業者代表

庄 健 介	平 野 剛
宮 本 一 郎	湯 山 佐世子
横 山 章	上 杉 雅 彦
宇都宮 道 夫（代理 竿山）	中 谷 靖（代理 河合）
西 村 幸 久	吉 川 紀 興

（3）経済界

植 村 一 仁	植 村 武 雄
---------	---------

（4）学識経験者

小 谷 通 泰	加 藤 恵 正
末 包 伸 吾	

【オブザーバー（4人）】

国 土 交 通 省	北 川 健 司（代理 牧野）
兵 庫 県	笠 尾 卓 朗
兵庫県警察本部	三 宅 佳 史（代理 稲田）

4 議事

（1）開会

（2）委員の紹介

(3) 会議資料の説明

(4) 議事

- ・三宮周辺地区におけるまちづくりの目標と方針（案）について
- ・まちづくりの方針（案）を実現するための施策について

(5) 閉会

5 議事の内容 別紙のとおり

1. 開会

○三島都心三宮再整備担当部長

皆様おはようございます。本日はお忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。

それでは開会に先立ちまして、委員の皆様にご確認させていただきたいと思っております。

本日、報道機関より、当会議の会議風景を撮影したい旨の申し入れがございましたので、議事に入るまでの間ということで許可したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

○三島都心三宮再整備担当部長

異議がないようですので、撮影を許可することといたします。

報道機関の方は、撮影をしていただいて結構でございます。

それでは、ただいまより第2回三宮構想会議を開催させていただきます。

私は、住宅都市局計画部の都心三宮再整備担当部長の三島と申します。事務局といたしまして、進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

2. 委員の紹介

○三島都心三宮再整備担当部長

それでは三宮構想会議を進めるに当たりまして、まずはお手元の資料を確認させていただきたいと思っております。

次第と会議資料につきましては、事前に送付させていただいております。

本日の資料をお忘れの方がいらっしゃいましたら、おっしゃっていただきたいと思います。また配付資料といたしましては、本日ご欠席の委員から事前にいただきましたご意見を資料としてお配りさせていただいております。また参考資料といたしまして、三宮周辺地区の平面図、その他といたしまして、本日言い足りなかつたご意見をご記入いただく用紙を配付いたしております。資料に不足がございましたらおっしゃってください。

それでは、続きまして、本日、ご出席をいただいております委員及びオブザーバーの皆様のご紹介につきましては、資料1委員名簿をごらんいただくことで省略させていただきたいと思います。なお、欠席のご報告と代理のご出席をいただいております方につきましては、ご紹介をさせていただきたいと思います。

本日は、経済界の代表でございます松田委員並びに学識経験者の小浦委員、相良委員、牧委員がご欠席でございます。また、交通事業者の代表でございます宇都宮委員につきましては、代理として竿山様が、中谷委員の代理といたしまして河合様にご出席いただいております。またオブザーバーでございますが、国土交通省近畿地方整備局の林様がご欠席

でございます。また国土交通省近畿運輸局の牧野様並びに兵庫県警察本部の稲田様が代理でご出席をいただいております。出席のご紹介は以上でございます。

それでは報道機関の撮影は、ここで終了といたします。

ここからは小谷会長に進行をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

3. 会議資料の説明

○会長

皆さん、おはようございます。本日も皆様方から忌憚のないご意見をお伺いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の次第に従いまして議事を進行させていただきます。

では、まず事務局より3会議資料の説明についてお願いいたします。

○若林都心三宮再整備担当課長

では、会議資料のご説明をさせていただきます。私は、住宅都市局計画課の都心三宮再整備担当課長の若林と申します。よろしくお願いいたします。

先ほど三島が申しましたように、事前に資料を配付させていただき、一度はお目通しかと思いますので、改めてのご説明となりますので、ここでは簡単にさせていただきたいと思っております。

では、まず資料2をお開きください。資料2は、第1回三宮構想会議の議事要旨となります。第1回の会議では、委員の皆様是三宮周辺地区の目指すべき方向性と取り組むべき内容につきまして、さまざまなご意見をいただきました。意見の内容につきましては、ここでの説明は割愛させていただきます。

続きまして、資料3でございます。第1回三宮構想会議におきまして、委員の方から三宮周辺地区の再整備基本構想を策定していくまでの流れ、また三宮構想会議でどのような議論をしていくのかという全体のイメージを出したほうがいいのではないかというご指摘を頂戴しました。そういったことで、今回、都市全体の流れを1枚のペーパーにまとめさせていただきます。

第1回につきましては、この資料3の上段でございますとおり、三宮周辺地区の目指すべき方向性と取り組むべき内容についてご意見をいただきました。その後、事務局のほうで、都心の未来の姿、将来ビジョンの検討もさせていただきますので、神戸の未来のまちづくり300人会議といった市民参加のご意見を聞く場を開催させていただきました。また10月には市長と市民の皆様と対話をするという対話フォーラム、これも都心の未来について議論したものでございますが、こういったものも開催させていただきます、本日の第2回三宮構想会議を迎えておりまして、後にご説明させていただきますが、本日は三宮周辺地区におきますまちづくりの目標並びに方針につきましてご提示いたしますので、これに

ついてご議論いただけたらと考えております。

また、この後11月には、市民といろいろご意見を交わす、また学識経験者の皆さんからいろいろ施策のご提案等をいただきたいと思いますと思ひまして、都心の未来を考えるシンポジウムを開催させていただく予定でございます。

第2回及び次の第3回になりますが、このときは三宮周辺地区におけますいろんな機能の配置並びに駅前、三宮駅周辺地区の都市空間のあり方につきまして議論をいただきたいと思いますと考えてございます。

次の第4回になりますと、三宮周辺地区の再整備基本構想の議題をご提示させていただけたらと考えておひまして、このたたき台につきまして、またご意見、ご議論いただき、それを修正等いたしまして、市民の皆様へパブリックコメントという形で公表していきたいと考えています。またパブリックコメントのご意見を踏まえまして、最終的に第5回で三宮周辺地区の再整備基本構想の最終案をご提示させていただき、また最終的なご議論をいただいた上で、三宮周辺地区の再整備基本構想を策定するという流れで考えてございます。

大きな流れといたしましては、以上でございます。

次に、資料4をお開きください。我々、皆様と一緒に考えていく三宮周辺地区の再整備基本構想のアウトプット及び最終的にどのような形になるのかということの、一つの構成の案でございます。

これにつきましては、資料4の1枚目に、おおむね構成案の形を書いております。一つ目に、まず、この構想の目的や方向性、現状の課題等を整理をしまして、二つ目には、本日ご提示し、またご議論していただきます、まちづくりの基本方針ということで、目標、方針を整理していくと。これをもとに三つ目としまして、そういう基本構想、基本方針に基づいたまちの姿を実現していくための取り組みといったものを、具体的な機能の配置図や、イメージパースなど、こういったものでお示ししていこうというものになります。さらに、それを実現していく流れといたしまして、四つ目に、おおむねのスケジュールといった流れを示していくものと考えてございます。そういったものにつきましては、資料4の後半に、A3の資料で、例えば名古屋駅前や、札幌駅前の再生基本構想など、他都市の事例を参考に挙げさせていただいております。

全く同じになるかどうかはわかりませんが、どの基本構想、こういったものは全体目標といった意味でのコンセプト、さらにそれを具体的にそのコンセプトに基づく幾つかの方針をまずづくり、それをその都市、その対象となる都市空間を構想のイメージ図としてあらわして、さらにそれを具体的な施策なり、また、その空間をどのようなイメージの図にしていくかという意味でパースだとか、イメージ図だとかというものを使って示していく。もちろん文章等も用いて整理していきますが、おおむねこのような構成で他都市もつくられておりますが、本市の三宮周辺地区におきましても、基本的にはこういった構成になっ

ていくのかなと考えておりました、皆様のほうに、おおむねこういったものをつくっていくんだという共通のイメージを用いるために、今回資料4としてご用意させていただいたものでございます。

次に、資料5をお開きください。資料5につきましては、まさに本日提示させていただきましたまちづくりの目標だとか、方針といったものをどのような過程で整理していったのか、導き出していったのかというものをお示しした資料となっております。

これまで、この三宮構想会議や都心の未来の姿検討委員会の中でも三宮の件についてのご意見、また市民の皆様からウェブ等でいただきました提案募集の内容だとか、先ほどご説明させていただきました300人会議並びに市長の対話フォーラム、こういったもののご意見等を各キーワードというか、同類のキーワードで整理いたしまして、そこから方針、目標等を導き出していった過程をお示しした資料になっております。非常にたくさんの皆様からたくさんのご意見をいただいておりますので、ボリュームが多いので、ここでは一つの説明につきましては割愛させていただきます。

次に、資料6をごらんください。これは、まちづくりの方針を幾つか載せてまた整理したものを説明しますが、その案ごとに、今具体的にそれを具現化していく際の一つの事例というか、施策の事例ですね。特に他都市での事例だとか、他都市ではこのような形でまちが成り立っていますよとか、このような空間をつくっています。また現在の神戸市の状況等につきまして、このような資料でまとめさせていただいております。いろいろこれ以外にもたくさんあると思いますが、本日議論していただく中で、このまちづくりの方針を具現化する際の施策を考える、具体的な施策を考える上での参考となる事例として、整理させていただいたものでございます。これにつきましても、一つ一つにつきましてのご説明は割愛させていただきます。

次に、資料7でございます。この資料7は、本日ご議論していただきたいところになりまして、三宮周辺地区におけますまちづくりの目標と方針といったものを先ほどの資料を整理させていただいて、導き出した結果をこちらに示させていただいております。目標としましては、ひと中心の神戸らしい快適で魅力・活力にあふれる玄関口への再生、ヒューマンスケールのまち、神戸の都心を感じられるまちといった目標を掲げてございます。また、その目標に基づき方針を五つほど挙げさせていただいております。歩行者にやさしいまちづくりの推進（ひとが歩いて楽しいまち）、方針2といたしましては、“「駅」＝まち”、わかりやすい交通拠点の充実（ひとが集まる“「駅」＝まち”空間）、方針3といたしまして、神戸の魅力をアピールする多様な都市機能の集積（ひとを誘う個性的なまち）、方針4といたしまして、市民が愛着や誇りをもてる神戸らしい景観形成（ひとが海・山を感じ、歴史をつなぐまち）、方針5としまして、持続的なまちづくりを支える仕組み・体制の構築（ひとが支え、まもり育てるまち）、このような形で目標と方針を、案としてですが、設定させていただいております。

この中で、方針2のところ、駅＝まちという考え方でございますけども、三宮駅というものは、JRさん、また阪急さん、阪神さん、さらに市営地下鉄の西神山手線、さらには海岸線、新交通のポートライナーといった六つの鉄軌道の駅を含むエリアを一つの大きな駅と捉えますが、さらにその駅前空間を一体と捉えまして、これを駅＝まち、神戸の玄関口というような形で捉えたものでございます。そういう中で、乗りかえの利便性、また回遊性、快適性を高め、さらにそこから周辺のまちとつながっていくというようなイメージ、これを駅＝まちという形で表現をさせていただいております。

まさに本日の構想会議におきましては、今回掲げさせていただきました目標なり方針といったものですが、これについて、まずはちょっとご議論いただけたらな、ご意見をいただけたらなと思っております。こういった目標なり方針を掲げてはいるけれども、ちょっとこんな視点とか、このような観点が欠けているんじゃないか、もしくは、ここに加えたほうがいいんじゃないか、こういった点をもう少し強調したらいいんじゃないかなど、そういうようなご意見だとか、またその方針等はいいいんだけど、さらにそれを具現化するような施策等については、もう少しこういった具体的なアイデアだとか、各事業者だとか地域だとかがこういった形で取り組んでいけばいいんじゃないか、このような内容、アイデア、施策につきましてご意見をいただけたらと、このように思っております。

資料7につきまして、もう一枚A4のものもありますが、おおむね三宮周辺地区のまちづくりイメージといたしまして、これからこの方針に基づいて少し具体的な絵を描いていくための、まだたたき台のたたき台レベルですが、こういったものをイメージを共有していただくために少し提示させていただいております。

資料の説明につきましては以上でございます。よろしくお願いたします。

4. 議事

○会長

どうもありがとうございます。本日の会議では、繰り返しになりますが、以下の事項についてご議論をいただきたいと考えております。ただいまご説明いただきましたように、資料4では、他都市の基本構想のアウトプット、構想の事例を示していただきました。そして、今まで出していただきましたさまざまな意見をもとに、三宮周辺地区におけるまちづくりの目標と方針を取りまとめていただきました。特に資料7では、まちづくりの方針として5つの方針を示していただいております。またこれに加えて、そのようなまちづくりの方針を実現するための具体的な施策についても、資料6でアイデア集のようなものをつけていただいております。本日は、こうしたまちづくりの目標、方針について、皆様方から忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。これらの資料にとらわれることなく、新たなアイデアがあればどんどん出していただければと考えております。

意見交換に先立ちまして、まず本日ご欠席の委員の先生方から事前にご意見を伺っておりますので、まずそれを事務局よりご披露いただけますか。

○若林都心三宮再整備担当課長

本日ご欠席の相良先生、牧先生からご意見いただいておりますので、紹介をさせていただきますと思います。

お手元に資料が配付されていると思います。まずユニバーサルデザインの学識委員としての相良先生からのご意見でございます。少し割愛させていただきます、ご披露いたします。

五つの方針について幾つかご意見をいただいております。

まず、歩けるまち、歩きたくなるまちという一つ目の方針につきまして、五つほどご意見をいただいておりますが、一つ目では、フラワーロードをバルセロナのランブラエ、ヘルシンキのエスプラナーディ通り、また仙台青葉通りのように自動車交通を制限し、広く緑地化してはどうか、このようなご意見でございます。

また、2の交通結節点としての三宮につきましてですが、これも一つ目ですが、駅相互の乗りかえ案内に加え、駅から中心市街地への移動を促す情報提供を行うといったご意見でございます。

3につきましては二ついただいております、多様な都市機能の集積という方針については、やはり一つ目で申しますと、三宮地区全体として、あるいは都心部全体としての集積を考え、1カ所への集中を避けるというご意見をいただいております。

方針4についてですね、神戸らしい景観形成といった観点につきましては、一ついただいております、広告の規制などにより洗練された都市景観をつくることでサインなどの情報がわかりやすくなる、このようなご意見でございます。

さらに五つ目がサステナビリティ、エリアマネジメントというか持続可能なということで、方針5ですが、これも一つ目を挙げさせていただきますと、よい循環をつくると。三宮周辺だけではなく、神戸のまちは障害のある人が外出している風景が普通に見られる。30年前はチャレンジであったことが普通になった。より普通のことになるような取り組みが望ましい、このようなご意見。

さらに、ちょっと6として、防災・減災、防災だけじゃなくて減災という言葉を入れてほしい。この中でもフリーWi-Fiの整備は災害時の情報確保に有効だと、このようなご意見を頂戴しております。

続きまして、防災のほうの指針としまして、牧先生のほうからもご意見を頂戴しております。これは3点ございます。これは全て披露したいと思います。

防災に関する内容についてということで、防災・安全ということは、地域を考えた上でのベースになることであり、個別方針として上げるよりも、むしろ全体を通した既定の考え方として表現されることが望ましい。例えば、これは目標のところ、ひと中心の神戸らしい快適・安全で魅力といった形でいいのでは、というようなことを上げていただい

おります。

二つ目、帰宅困難者対策について、神戸が被災していなくても、台風、地震で鉄道が停止することにより、大量の帰宅困難者が発生することが予想される。阪神・淡路大震災を経験したのにうまく対応ができない、そういうことは神戸としては大問題である。滞在できる広場、情報提供、さらにはトイレ、利用できる水、このような神戸でよかったと言われるような対応が求められるのではないかと、このようなご意見でございます。

3に、三宮周辺における水の確保、2と関連するよう見えますが、トイレを流す、火災を消すといった用途に利用可能な水、そして苗木の整備が必要、そのようなご意見を頂戴してございます。委員のほうから事前にいただいたご意見は以上でございます。

○会長

ありがとうございます。何かご意見を賜れますでしょうか。

○委員

この資料7を拝見していると、これまでのこの会議の意見、神戸の都心の「未来の姿」検討委員会での意見、市民の皆さん、市長との対話など、数多くの意見を整理し、この三宮ということに焦点を置いて5つの方針をつくってこられて、非常にうまく整理されていると思います。ただ、そういう帰納的な方法をすればするほど、議論はどうしても最終的には一般的なものになっていきます。その際、同時に我々としてはやはり神戸・三宮があるべき姿というんですか、これは、ここにいらっしゃる皆さんも含め、専門家も含め、あるいは当然のことながら市役所のこれまで一番蓄積を持っておられる方から、何らかの方針が出て、その接点で具体的な姿に展開していくことになるのだろうと私自身は思っております。

三宮をそういう目で見ますと、今回の資料7も、景観、ハードの話など、具体的に見える議論が多い。方針1の歩行者にやさしいまちづくりというのは、アーバンツーリズムというような観点から見ても、大変重要なポイントだと思います。では歩く人をどうやって集めるのか。歩く人がたくさんいれば楽しいまちになりますが、歩く人はどこからくるのか。もちろん都心居住というのものもあるし、郊外に住む人が都心を楽しむということもあるでしょう。周辺都市からも魅力ある神戸ということで来られることもあるでしょう。しかし、都心が持っている最も重要な機能というのは、神戸全体を牽引するパワーと申しますか、エンジンとしての経済的な機能だと思います。

活力があるがゆえに、そういう楽しいまちづくりも展開すると理解しています。政府は、地域創生ということで、東京にある企業の本社を地方に移転させる仕組みをつくらうという動きがあるようです。企業が東京に一極集中することが純粋な経済的メカニズムでなっているとは到底思えません。東京への上場企業の集中度は、50%から60%の間と言われていますが、アメリカではニューヨークに5%、6%しかいない。東京から神戸に来てくれる可能性というのは、これから大きくなってくると思います。そういう企業に神戸からど

ういう提案をすることができるのか。日本経済全体の動きから見て、外資系企業の立地は、日本経済の最大のポイントです。対外直接投資の対GDP比は、日本はOECDで最低です。ですから普通の国になるだけで、日本にはまだまだこれから多くのポテンシャルがあるわけです。そのあたりが、もともと外国との接点を最も重要なポイントとしてきた神戸にとって、大変大きな契機になってくるのだらうと思っています。そういう提案をどのように具体的にしていくのかということも、より具体的な形で盛り込めないか。この方針でいいますと、方針3のあたりのこととお話させていただいていると思います。

さらに申し上げれば、これからの都心の姿というのは、例えば研究教育的な機能であるとか、あるいは新しいものを生み出していく機能というようなものが、三宮にかかわらず、もう少し広い都心での重要な機能になっていく。そういうものをどのように神戸は引きつけていくのかということともかかわっていると思います。もちろん大きな議論であるツーリズム、観光の要素は、大変重要ではありますが、神戸がみずから生み出していくメカニズムをこの中に埋め込む最も重要な拠点としての三宮をぜひともここで提案をしていただきたいと思っています。

そういう点では、方針5のエリアマネジメントの機能は大変重要だと思います。先日、大阪では、エリアマネジメント組織が企業誘致も含めたそういうことに着手されているという報道がありました。やはりそうした機能はいずれの都心においても重要なことだと思います。

○会長

ありがとうございました。神戸全体を牽引するパワーということを考える中で、三宮が拠点としてどういう役割を果たしていけるかということで、ご助言をいただきました。

○委員

特に都市デザイン、景観の点から気づいた点を申し上げたいと思います。この資料7が今後の一つの目標像になっていくわけですがけれども、先程のご指摘のように、全て書いていきますとやはり一般化されてしまう。どこかで神戸らしさみたいなものが消えてしまう。どこの中心都市の駅前でも、あるかもしれないような目標像になってしまう。方針1では歩いて楽しいまちとか、方針2ではひとが集まる、方針3では、回遊ということを出されていますが、端的にまとめますと、いかに居心地のいい空間を駅前、三宮につくるのか、その居心地のよさ自身が神戸らしさとつながるのではないかということです。そのときには、名古屋とか、あるいは他都市と圧倒的に違うのが、三宮が持つ地勢というか、トコロジというか、地理的条件です。そのトコロジを十分認識した上で空間づくりのシステムに入っていきることが、今後のデザインの一つのきっかけになっていくと思います。

この居心地のよさということに関して3点ほど申し上げます。一つは、駅前の居心地のよさということと考えますと、どういうパブリックスペースをつくるのか。これは屋内、屋外にかかわらず。パブリックスペースという認識でつくるのか。神戸では、既に皆

さんにご案内のとおり三層構想というのがありまして、南北をつなぎましょうということが展開されているわけですが、今のところ残念ながらそれは歩道橋というか、人の動線にしかありません。居心地のよさという点でペDESTリアンが南北と、あるいは三層構想になりますと、地面といかにつなげるのかということが、三宮の空間づくりのためのシステムとして重要な視点になるだろうと思います。

それから方針2で、あえて駅＝まちと書いています。神戸のトコロジー、この資料7の地図を見てもわかりますが、駅からの歩行圏に、神戸らしいまちが展開している、そのちょうど真ん中に駅があるという重要性もあるかと思えます。そういう点では、単なる交通の結節点というだけではなくて、三宮全体の中心という考え方がいいのではないかと思います。もちろんそのためには交通の結節点とか、機能的な整備も要るかと思えますけれども、やはり海と山が近い、あるいは居留地から元町が近いというコンパクトタウンといった、神戸の地勢が僕らに与えてくれたある種のコンパクトネスみたいなものをいかに生かすのかということが非常に重要になるかと思えます。

それから3点目が景観です。景観の一番大事なポイントは、もちろん外観にかかわる素材等もありますが、ある敷地の中に、あるいは複数の敷地の中に建物をどういう大きさでどういうふうに配置していくのかということが居心地のいいパブリックスペースをつくるために、一番重要な視点だと思います。そのためにも、先ほど申し上げましたような空間づくりのシステムが三宮駅前のどういうところにあるか。その居心地のよさのための空間づくりのシステムから生み出されたパブリックスペースが連鎖していく。そのことによって、先ほど言いましたコンパクトタウンの回遊性が生まれていって、そして三宮周辺にある、神戸の皆さんが思う魅力的なまちになる、あるいは海と山にふれることができるようになるということだと思います。一つは居心地のよさという点で全体的なまちに、その次に居心地のよさのための視点として、それをどこかにつくっていくのかということで、空間づくりのシステムが今後重要になってくると思います。その際には、ぜひとも三宮が置かれている地勢、トコロジーを重視しながら検討を進めていく必要があると思います。あと今三宮自身が抱えているさまざまな問題を、パブリックスペースを導入するという空間づくりのシステムによって、防災的にも、景観的にも、いかに生かしていくか。特に阪神・淡路大震災後に神戸大学で研究調査いたしました、公共空間のいわゆるフリーな空間がいかに重要かという調査結果も出ています。屋内、屋外にとどまらず、皆さんもそれはご経験があると思います。この市役所の1階にも多数の被災者がいた。そして公園にもいた。そういう点では、防災的にもパブリックスペースをいかに重視させるか。これは屋内、屋外にとどまらず、重要な課題である。そこを一番やっておく必要があるのが、機能的に複合している三宮駅前だと思います。ですから、機能の整備をしながら、そこに空間づくりのシステムを入れていく。その空間づくりのシステムをいかに居心地よくするのかという点が、今後の五つの検討課題になると思います。

○会長

ありがとうございます。居心地のよさがキーワードになり、それを空間づくりにどのように取り込んでいくのが重要課題であるとのご意見をいただきました。その中で、どのようなパブリックスペースを創り出し、まちのコンパクト性をどう生かしていくのか、それから、景観の視点からどのような配慮を行うのか、についてもご示唆いただきました。

では、地元の皆様方のご意見をお伺いしたいと思っております。

○委員

今おっしゃられたコンパクトシティという考え方がとてもよいと思います。コンパクトシティの要諦をなすのは、住みやすい、働きやすい、学びやすいといったことであり、生活していく上でかなめになるようなことが大事だと思います。そういう観点で進めていくということは、よいことだと思います。

同時に、神戸市が所有している、例えば中央区役所や、交通センタービル、サンプラザ等、そういったものもこの際、全部整理整頓をすべきであると私は思います。例えばどこかに区役所の機能を持っていき、あそこへ、2,000台ぐらいの駐車場をつくる。なぜ中央区役所をあのよい場所に置く必要があるのか、もっと持っていくところがあるのではないかというようなことは考えられると思います。あるいは三ノ宮駅の北側に二宮という地区がありますが今、ゴーストタウンになっています。誰も見て見ぬふりで事が進んでいるという状況があります。私はそこへ、研究施設や、学校等という学研的なものを持ってくるというふうな大胆な発想をやらないと、コンパクトシティというものが形成されていかないのではないかと感じております。

○会長

非常に具体的なご提案をいただきまして、ありがとうございます。

○委員

私が考えておりますのは、JR三ノ宮駅から元町駅間の北側でかつ山手幹線より南側の地域も安心安全に歩いてもらえるようなまちにするかということです。私は防犯協会を50年ぐらいやっており、今は会長をさせていただいております。そういうことをしっかりやるということで今まで頑張ってきておりますので、どうしたらいいか、よくわかっているのですが、そのとおりにできるかわからないことをこの場でしゃべってもいけませんので、この辺で終わらせていただきます。

○会長

諸外国のまちでも、すさんでくると道路にごみが落ちている等、清潔感がない、犯罪が多く治安が悪い。やはり清掃が行き届いているとか、セキュリティが確保されている、防犯対策がとられているということは非常に大事で、先ほどおっしゃっていただいたエリアマネジメントの中でも、一見地味ですけど非常に大事な活動です。もちろん街灯をつけたり、道路のデザインもみんなで決めたりすることも大事ですが、非常にベーシックなご活

動だと思えます。どうもありがとうございます。

○委員

方針1にも歩行者にやさしいまちづくり推進とありますが、日々活動している中で歩行者にやさしいまちづくりとは何だろうと思う中で、やはり何を置いても迷惑駐輪の解消だと思えます。歩道が少しでも広いと安易な気持ちでとめてしまうのでしょうか、特に点字ブロックを塞ぐなど、障害者の方には迷惑この上ないことだと思えます。来春に開始する貸し自転車事業など、違法駐輪が少しでも減ることを望みます。

一方、交通渋滞の緩和実現のために、他都市でも事例があるようなトランジットモールを導入した上で、例えばフラワーロードや、三宮駅前交差点、加納町3丁目交差点などを、災害時の交通困難や事故の防止にもつながると言われている信号のない環状交差点、ラウンドアバウト方式にする等、大胆な発想で神戸三宮をアピールするというのも一つの方策かと思えます。

あと、方針の3にもありますが、人が集まってくる中での魅力についてですが、神戸の魅力すなわち海と山をアピールするには、例えばどちら側からでも一望できるような拠点を設ける、三宮近隣にある遊休施設や土地を利用して集客を図る。それに伴い、バスの乗降場所が集約されていないので、その辺に集約する等、この辺も含めてやっていけばいいのではないかと思えます。

○会長

ありがとうございます。

○委員

資料7に関しまして、三つだけ意見を言います。

まず、方針1、自転車の問題があります。三宮の問題というのは、駅周辺500メートルの地域のことであると思っています。そうすると、個人的には、三宮駅に自転車は似合わないと思えます。少なくとも三宮駅周辺500メートル、そこにそんなに自転車に配慮する必要があるのかどうか、それをしっかり考えてください。むやみやたらに自転車を持ち上げる、それは三宮駅に似合わないのではないかと思えます。

それと同じように、歩行者がどのようにしてくるのかと言うと、やはり車に乗って来る人が多いです。三宮のまちに車に乗って来られる、三宮周辺を歩く方、そういった方はまちにとって非常に大事な方です。ですから、そういった三宮に来る車を歩行者と同じように大切にしてください。今、大丸の周辺で歩行者を持ち上げて、車をないがしろにしていると感じています。ですから、そういったことはやめてほしい。車に乗って来る方はやはり大切なお客さんですから、それを大事にしてください。それがまず最初の方針1に対する意見です。

二つ目は、方針2で、駅＝まちと言われている、これは非常によいと思えます。その後「わかりやすい」という言葉が続きます。駅にとっては確かにわかりやすいということ

は大事です。ところが、まちにとってわかりやすいということは、そんなに大事なことではないと思います。例えば、ハーバーランドのモザイクは、にぎわっていますが、あそこは一番わかりにくいまちです。またイオンモールの神戸、あそこは道全体が歪曲していません。見通しがよくてわかりやすいということは、まちにとって必ずしもいいことではないことがあります。ですから、見通しを余りにもよくするというのは、確かに駅にとってはよいかもしれませんが、まちとしてはそんなに魅力的なまちではないかもしれないということを注意したいと思います。

で、もう一点、方針4の景観、これが私にとって一番気になるところです。市民の意見の中に神戸らしさや、そういった自然を感じる等がありますが、この方針4に書かれている眺望スポットの確保といった考えは反対です。前の資料の中に、六本木ヒルズの眺望スポットの写真が出てまして、こういったものを参考にするとか、また、資料7の2ページ、山からの眺望、海からの眺望、駅からの眺望など、そういったことがあふれています。確かに、これは大事なことです。ところが、こういったスポットからの眺望という考えは、少なくとも神戸らしくありません。例えば、東京には富士見坂という坂がありますが、あれは、東京は富士山が富士見坂からしか見えないんです。だから、ああいうスポットがあって名物なんです。ところが、神戸には六甲坂がないでしょう。つまり、神戸はどこでも六甲山が見えて、神戸はどこでも眺望スポットなんです。どこでも海を感じる、そういうまちなんです。ですから、神戸にとって眺望というのは、眺めるものではないんです。それが、皆さんからいろんな意見が出ているところの神戸は自然を感じるんです。ですから、ビルの頂上に眺望スポットをつくって眺めがいいというのは全く神戸らしくない眺望の考え方です。神戸をもっと自然を感じられるまちにするのが愛着がある、好意を持てる神戸らしい景観です。残念ながら、今、会議を行っているこのビルはフラワーロードからの神戸の眺望を損なっています。これは山を感じさせるのに障害です。できればこのビルをなくして、市役所をもっと小さいものにするとか、別のまちに持っていくとかして、もっと眺望のいいまちにするといったことを私たちは目指すべきだと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

自転車問題は、それぞれの場所で、それぞれの問題を解決しないといけないと思います。よくも悪くも乗っている人がいるわけで、これは何らかの形で処理をせざるを得ないと思います。ただ、余り乗ってほしくないという気は確かにします。

ここに書いてあることが別に間違っているとも思わないし、そういう考え方は確かにあるだろうと思いますけれども、では、これで神戸なのかという意味での目立つものは、極端に言うところはありません。神戸、特に三宮へ降りたときに、何をしたら、どういうふうになっていたら、来た人や、我々が使っていて便利になるのかということのほうが、むしろ気

になります。

景観の話で言うと、普通に見えていたものが見えないようになっているということは非常に問題です。ある人がほかの会議で、新神戸の近くの山手に住んでいるが、だんだん海が見えないようになったと言っていました。それはなぜかと言うと、マンションが建って海の景観がどんどん阻害されて見えなくなっているということだそうですが、それでも僕はまだ神戸は一方で見えると思います。横浜に行っても、横浜は実は港が見えないんです。大学生のころに横浜の港の見える丘公園に行って、港が見えないと激怒したことがあるのですが、そういうことは少なくとも神戸ではない。ですから、そういう今ある資源をもっと大事にしておく必要は、あると思います。

参考資料で今日いただいた地図を見て思ったのですが、JRと阪急の駅が中心線で言うと300メートル、200メートルぐらいずれています。どうしたらセンターにできるのかなと思って、この地図を見ていると、結局フラワーロードの上のところしかセンターにできない。だったら、ここをセンターにすることを軸に、この周りのことを考えていくほうが、早いのではないかと思います。それで全体として機能の拡大をしていき、さらにそれをつないで、それぞれ高架があるわけですから、その高架をどういう形で高度利用していくかということが具体的な方策としては出てくる。その対面している部分、交通センタービル、センタープラザ等とのジョイントと、必要であれば機能の変換をやっていくことによって、とりあえずの問題は集約できるのかなと思います。

実際、そこに何の機能を持ってくるかと考えると、余り大きなものをつくったらいいと思いませんが、例えば中央区役所を駅ビルの上に持つてくるということを考えてもいいだろうと思うし、そういうふうに考えていけばやり方は個々ではあると思いますが、全体として言うと、こういう字面になるのかなと思いました。もう少し絞らないといけないと思います。

○委員

先程から眺望景観についてのご指摘がありましたので、私のほうからご説明します。

両委員がおっしゃっていることと、神戸市が今行っている眺望景観に関する規制のコンセプトは全く同じです。海が見られる、山が見られるようにやりましょうと。ただ、規制でもありますので、どうしても全てのところから海が見られる、全てのところから山が見られるということまではできてなくて、基本的にあるポイントから六甲山系が切れない、六甲の山並みの頂上が切れない、あるいは、あるところから海が切れないということを中心に今やっています。ただ、基本的に海を感じられるまちにしましょう、山を感じられるまちにしましょうという一番大きなコンセプトは一緒だということをご理解いただければと思います。先程おっしゃったように、地図を見ておっしゃっているというのは僕も全く同じです。このダイアグラムだけですと、どこのまちでも同じようになってしまいます。先ほど私が、名古屋と違いますよと申し上げたのは、この地図の上でどう落とすかという

ことが非常に重要だということです。それが先ほど申し上げた空間づくりのシステムであり、今おっしゃいました、フラワーロードの上しかないのではないかとということも空間づくりのシステムの考え方の一つだと思います。この委員会でそういうことを具体的に検討していくのかなと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

今、私どもの地元として、放置自転車の問題に取り組んでいます。雲井通6丁目、5丁目、旭通5丁目、この150メートルほどの商店街に、連日平均400台の放置自転車があります。これを何とかしようということで、地元、行政を含めまして対策を練っているいろいろなやっていますが、この間、あそこを利用される方、もしくは通勤・通学の方、いろんなところでアンケートをとって、ある程度の止める理由を求めました。三宮駅をおりて、南、東を見てみますと、こんな状態がずっと続いているということが、美観的観点から決してよろしくはないのではないかと思います。地元としまして、この問題はもう限界を超えている状況です。ですから、何とかこれをゼロとまではいかないとしても、何とか解消していきたい。だったら、こういう構想がある中で、地元も含めまして解消できるようなアイデアがあるのでしたら、協力して考えていっていただきたいと思います。

それと、そこにスクランブル交差点がありまして、大型バスがひっきりなしに行き来しています。このスクランブル交差点で、信号で大型バスがとまると、万が一、この間に大きい火災が発生した場合、周囲には放置自転車が400台とめられているさなかに消防が入って来られるかという、現実問題として大変危機感を覚えております。こういったことも踏まえまして、地元としても、この会議で解消できるようなアイデアを出していきたいと思います。

それと、バスの集約スペースはどこに設けるのかということは、考えてないといけないと思います。この構想会議で、場所はここにしましょうということが定まれば、いろんな意見が言いやすいのですが、今現実にもそういったスペースをどこに設けるのかというと、例えばパブリックスペースでいいますと、中央区役所や勤労会館があります。例としてミント神戸の1階に一部のバスターミナルを設けています。これはかなりわかりやすいし、利用される方も結構いらっしゃる。そういったことを考えて、中央区役所、勤労会館一体にバスターミナルを設けて、上に公共施設やサービスセンター等を設けるという計画を、僕はずっと行政の方に要望として申し上げてきました。そういうことは可能なのか。スペースの問題をどうするのかということが定まらないと、バスの問題があっても提案しづらいということで、行き詰まっていますので、その辺もご配慮いただきたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

光の回廊委員会は、駅前の商業施設のメンバーが多数集まっておりますので、我々のまちづくりということについては、我々の商売、あるいは商業施設をベースにしながら、どれだけご協力できるかという視点で話をしているところです。

今回、この資料を読むと、いろんなキーワードがいっぱい出てきて、それを見たら、俺はこう思う、私はこうだという、論点がたくさんあり過ぎて、話がまとまりにくいと思いました。まちづくりはゼロからつくるわけではなくて、今既にあるまちをベースにしながら、どれだけ暮らしやすくなるのか、いいまちにしていくのかということなので、現状を否定するということではなくてまず肯定をしないと、神戸らしさというキーワードは常にゼロになってしまうのではないかなと思います。ですから、方針が五つありますが、まちということベースにすると、もっとスポットを当ててキーワードを出したほうが、そこに集約して意見が出やすいと思うので、ハードの話が多いので、ソフト寄りのことのキーワードを入れるべきではないかと思えます。

具体的にそれは何かと言うと、我々も商売に役立つためということで、神戸ゆかりの業界の人や、店頭に来られているお客様、勤務している従業員などにいろんな話をリサーチをしました。その中で出てくるのは、神戸というのは上質とか、エレガンスとか、おしゃれとか、そういうキーワードを絶対に外してほしくないということです。だから、まちがきれいになっていくのはいいのだけでも、きれいになるイコールそれが継承されるのかということがとても不安ですという話が、ほとんどの女性の方から出てきました。

それと、もう一つは、やはり神戸は異国情緒ということで、いろんな異文化があるということである、食文化もいろいろありますが、それをひとまとめにするというのはどうなのかという話も出てきました。ですから、資料の中にも、神戸の玄関口三宮というキーワードがいっぱいあったと思うんですが、玄関口というのは、後ろにあるバックボーンが何かということになると思います。和風の建物の入り口が洋風の玄関口はあり得ない。でも、神戸は、コンパクトシティ、そういった部分のいろんな文化がいじりまざっているのが一つの神戸らしさというゆえんなので、一つのテーマでまちを全部統一化するとか、画一化するという方法は、いろんな人に聞くと、それもどうなのかという意見が非常に多かったということです。

ですから、テーマの中にそういうソフトな要素が1個ぜひとも入れていただき、それが歩いて楽しいまちでもいいですし、その辺にスポットを当てていただいて、論議をしていただければと思っております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

僕がこの資料を見たときの第一印象は、いろんな会議で出ている内容と大して変わらな

いということですが。

人が歩いて楽しい、歩行者にやさしい、そのほかわかりやすい交通拠点にするだとか、こういったものは、恐らく今まで何年、何十年とほぼ同じ内容で議論されてきたのかなと思います。そういう意味では、総論としては恐らくほぼ賛同をいただける内容になっていると思うのですが、各論になると恐らくいろんな問題が出てくる。それをここで議論するというのは、現実的には不可能ではないかとは思いますが、議論の仕方を整理されたほうが良いと思います。

例えば、方針5にK O B Eブランドを国内外に広報・PRする取り組みの強化とありますが、これは三宮の構想ではないはずですが。もっと言うと、神戸全体の話だと思います。そういう拠点を三宮につくるという意味であればまだわかりませんが、なぜこれがここに入っているのかよくわかりません。

あと、全体的にハード等の意見が多いという中で、私自身も商業者という視点でいうと、商業・経済活動に関する一つの方向性みたいなものが全くここには記載されていません。神戸として、あるいは三宮としての商業経済活動等に対する一つの考え方が、どこかにないとまちづくりはできないような気がしますので、そういったことは、はっきり明確に書くべきではないかと思えます。

○委員

市民の皆さん個々の書いた意見を集約されて、まとめられているのであればあるほど、どうしても一般化してしまう。ここからどういうように、具体的に三宮の図がらに落としていくのかというところがやはりポイントだと思います。

それと商業に関しては、これはぜひとも各委員から具体的に提案をいただくのがいいと思います。神戸の魅力の最も重要なポイントでもありますので、ぜひともお聞かせいただければと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

まず資料3で、三宮周辺地区の再整備基本構想策定までの流れというのが出てございます。第3回では、三宮周辺地区における機能配置及び駅前空間のあり方となっています。第4回では、たたき台の提示という事でございます。私は、区のまちづくり会議、安全・安心の委員会、各局の審議会や委員会等がある中で、常に出ているような話題は、別段、再整備基本構想に入れなくてもいいのではないかと思います。行政として、もうやればいだけの話だと思いますので、ぜひ再整備という守備範囲で具体性を持った計画、構想の策定まで早くやらないとだめではないかと思えます。市役所は法律等も含めたいろんな制度もよくご存じであるし、実際に何かをやろうと思えば、いろんなところで障害があって、それを乗り越えるにはどうすればいいかとか、あるいはどこの金をどうやって持ってきた

らいいとか、よく知っていると思うので、次回の構想会議で市としての提案というものを、全体像でなくてもいいですから、部分的にでも結構ですからお出しただいて、それが第4回のたたき台になる、そしてパブリックコメントと、こういう流れに是非ともしていただきたいと思います。

次に資料4でアウトプットのイメージというのが出ております。こうやってまとめれば立派なものができるだろうなと思いますけれども、三宮という限られた地域の、しかも基本構想の話でありますから、満艦飾にならないように、電話帳みたいなレポートができるということにならないように、実践ということを意識した取りまとめをぜひお願いしたいと思います。実践ということを意識すれば、どうやってやるのかという方策、施策というものについても触れるべきであろうと思います。それで、構想の実現に向けてというところで短期、中期、長期と書いておられますが、その短期がどれぐらいの期間をイメージし、中期がどれぐらいか、長期はどれぐらいかよくわかりません。事業によっては、時間がかからざるを得ないというものもありますし、すぐできることもあるし、全体の背骨さえきちんとしていけば、それに反しない範囲でやれることからどんどんやっていけばいいと思います。

それから、こういうときのスケジュールを考えるとときには、東京オリンピックの年、2020年ぐらいを、その前にはラグビーのワールドカップもあるとかいろいろなことを考えながら、いつまでにここまではやろうという具体的なスケジュール感を持っていただきたいと思います。最終的にでき上がるのは随分先になるのは仕方がないと思うし、そういう意味では、こういうまちづくりはエンドレスだと思います。港の計画などを拝見しますと、20年先、30年先の話が書いてあって、一体これは誰が責任持つんですかということがありますので、ぜひ短期、中期という足元の話について、イメージであっても、より具体的な構想をお示しいただければいいのではないかと思います。

私ども経済界としては、シンクタンクとも言うべき海港都市研究会というのをつくってしまして、提言を出しています。ここで書いてあるイメージ的なものは我々はもう出しています、そんな中で、具体的なものとして、デッキの構想や、バスターミナルでありますとか、JR三ノ宮駅の東口の話でありますとか、あるいは情報センターとしての機能の充実でありますとか、幾つか書いてございまして、皆さん方から出ている意見も含めて、ある程度、主だったものは提言させていただいていますので、ぜひ読み返していただければいいなと思います。

さらに、それを具体化するということは今考えておりまして、そういう視点でこの会議としても具体的な検討が必要だろうということで申し上げますと、先ほどいろいろおっしゃっていたような、例えば中央区役所、勤労会館、あの辺りを何とかしてはどうですかとか、市が所有するところについて、どう活用するのがいいのかというのを1回ゼロベースで考えたらどうですか等という意見は私も全く同感でございまして、三宮地区を再生させ

る、再整備するというところで、長期的な視点でのいろんなこともぜひ皆さんで提案されればいいと思います。

そんな中で、一つだけ強調したいのは、フラワーロードが縦の軸の大事な動線、幹線であるということです。どう考えても、ガード下のあたりはだめです。個々の整備が急がれます。私がこのスケジュールについて危機感を持っているのは、都市間競争が激しくなるし、世の中がどんどん変化している中で、今のようなテンポでやっていたのでは、負けてしまうと思うからです。福岡や札幌にも負けているようなところがありますので、ぜひ危機感を持って、やれることからやる。これはどのみちやらないといけないというものを出して、具体的な実施のスケジュールを持ったプランを例えば予算化し、スピード感をもってやっていただきたい。そこで一つ提案を申し上げますならば、よく再開発で使われる手法で、幾つかの地主や施主が共同して、一筆の土地と見ることによって建ぺい率、容積率も考えながら再開発し、地上空間をできるだけ捻出しましょう。効率よく空間を使うことによって、平面の公的に使えるスペースを確保しましょうという議論はよくあります。震災復興の再開発とは違って、積極的にまちづくりをする上での方策として建物等の再開発を進めるという考え方からいきますと、交通センタービル、それからJRの西口部分、それから阪急とあるわけなので、ぜひ三者でコンソーシアムを組まれるなどして、あるいはBID等を活用されるなどして、あそこの空間をどう使い、フラワーロードで、山や海につながる感覚が出るような形で、西側のあの一体を一つの対象区域としての再開発プランをつくってはいかがでしょうか。

その中身に何を入れるかということは、研究開発的な要素を入れるということもいいでしょうし、中央区役所を持ってくるというのもいいでしょう。要は、そうすることによって、ガード下の部分の歩道を市役所の前あたりの歩道の幅と同じぐらいにできるとか、バスのターミナルとしてうまく使えるとか、考えられると思います。とにかく再開発をする中で、既得権のあるお店は、2階や3階に移っていただくものは移っていただいて、平面のクリアランスをよくして計画を進めると、フラワーロードも整備が進む。こういう感覚で、具体的な事業計画をイメージしてスピード感を持って進めていかないと、都市間競争に敗れ去るというような危機感を持っているものですから、ぜひそんな迫力で進めていただきたい。経済界もできるだけ応援するように努力するつもりでありますから、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

○会長

どうもありがとうございます。皆様方から大変たくさんのご意見をいただきましたし、これに、この場で事務局に全てのことに答えいただくというのは難しいとは思いますが、補足説明がございましたら、お願いできますか。

○若林都心三宮再整備担当課長

ありがとうございます。我々もご意見を聞きながら感じているのは、三宮というものに

特化したものに本当になっているのかという点については、まさにそうだと痛感します。また、そういったものがないから少しインパクトがないという視点を置いていただけているか。また、我々の中で、盛り込めていない要素というのがたくさんあり、その中で、いろいろ今委員からご意見をいただいていますので、そういったご提案をここに盛り込むべきところについて、少し対策をさせていただいたり、景観のシステムだとかいったものについても、また個別にご相談させていただいて、まさにつくっていかなければならない、また、こちらにも提示させていただくようなことになるのかなと考えてございます。

○会長

自転車の問題とか、ソフトに関わるキーワードをもっと盛り込むべきではないとか、スピード感を持って進めるべきである、遊休施設を利用するとか、非常にたくさんのアイデア、ご意見をいただいています。この方針でカバーできていないものがありましたら、盛り込んでいただきたいと思います。

鉄道事業者の方で、ご意見がございましたらお聞かせ願いたいんですが、いかがでしょう。

○委員

資料5を見ておりますと、パブリックスペース、ホテル、オフィス、リサーチ・アンド・デベロップメントなどいろんな意見があります。これらをやっていくには、相当限られたエリアを高度利用していかなければいけないだろうと思いました。

本日のテーマですが、資料7で、目標、施策について申し上げますと、ひと中心とか、ヒューマンスケールのまちということが書いてありますが、個人的には、もう少しわくわく感が欲しいと思います。資料4で、名古屋を見ますと、世界に冠たるスーパーターミナルと書いてあります。札幌を見ますと、コンセプトは人間環境都市ですけど、四つの方針では、北日本の一大交通拠点とか、環境首都というような、かなり夢がある、大きな話が書いてあります。それと比べると、今回出てきた神戸の目標は、もう少し夢があってもいいと思います。どちらかと言うと、同じく資料4にある、枚方の人が主役のゆとりと賑わいとか、大井町の楽しく暮らし、気軽に訪れるとか、こちらのほうに近いと思いました。神戸、しかも三宮でございますから、もう少し背伸びをしてもいいと思います。

それから、もう一つのテーマ、今後のまちづくりの方針を実現するための施策ということで、資料7に、案がいろいろ書いてありますが、きょうも自転車の話とかさまざまのご意見が出て、まず大きなテーマが、今回初めて出てるのに、非常に個別具体的な方針まで出てきています。もしこのまま余り議論もなく、この会が終わったら、みんなが了解したことになるのかということをご心配しました。例えば方針1の③で、災害時には1階を開放と書いてありますが、どこの1階を開放するのか、民間の建物の1階を開放するということなのか、その辺についてはっきりイメージを持たないと、このまま出ていっていいのかと思います。

あとは、方針3の③に書いてある、スケルトンインフィルですか、これもできたらいいなということだと思いますが、これは公共の建物だけではなく、一般の建物もスケルトンインフィルにするということを行うのであれば、かなり意欲的で、民間の財産にまで意見を言うということになり、本当にこの会の総意としていいのかと思います。

あと1点、エリアマネジメントという言葉が方針5の中にあります。梅田エリアで私ももかかわりながらエリアマネジメントをやっていますが、立ち上げたものを維持していくというのは非常にお金と労力がかかります。これからこういった各論を実現していくときに、公共の役割と民間の役割を分けて考えると思いますが、民間の役割を考えるときに、これは近所づき合いとしてやることなのか、それともビジネスとしてやることなのかということ整理して考えないと、民間の役割はこれですと言っても、近所づき合いでやる範囲のことであればできますが、ビジネスとしてやることをここに書いてもなかなか実現しないと思います。よほどインセンティブというか、これをやったら自分のビジネスにもいいことがあるということが明確でないと、なかなか実現していきません。エリアマネジメント協議会の立ち上げというのも、案としてはいいと思いますが、実現を考えた計画にしましょうということであると、少し意欲的な提言だと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

質問をしていいですか。JRの駅ビルの建てかえは、JRの中期計画の中で、不動産の有効活用という中の項目として上げられているというふうに認識しています。つまり、駅ビルの有効活用です。ところが、この会議では駅としての機能のことが議論になっています。つまり、駅ビルをつくるのか、駅をつくるのか、これは全然違う問題だと思います。つまり、神戸市民もしくはこの会議がJRの三ノ宮駅に要望しているのは、交通結節機能としての駅であって、駅ビルの機能、例えばホテルや、商業施設をつくる、そういうものを期待するという意見はほとんどありません。ところが、JRの中では、計画上は駅ビルの活用というのがメインであって、駅の機能をどうするかということは、JRの中期計画にはないように思います。一体どちらを重要視されているのかということがわかれば、お聞きしたいと思います。

○委員

会社としての公式コメントはないんですけど、私なりの考えで申しますと、駅というのが当然中心になります。駅の機能を充実させて、使いやすい、わかりやすい駅にしていかなければ、そもそもご利用しづらいですし、訪れる方にとってもよくないということです。三ノ宮でいいますと、高架の下におさまっているところが駅ですので、高架の前の、今ターミナルホテルが建っているところが、今おっしゃった不動産になります。駅ビルの建てかえということであれば、まさに不動産の話ですので、これは不動産の有効活用のカテゴ

リーに入っているのはおかしくないことだと思います。ただ、そこをどうしようかというのは、今回のまちづくりの構想とか、神戸市のいろんな方針や規制の中で最適なものをつくっていかうということでもあります。駅はことしの3月まである程度きれいにしましたが、駅前のビルが古くなっていたりとか、あの辺の歩道橋の動線がよくないという意見も伺っていますので、そういったところを皆さんのご意見を踏まえながら見直していかうという方針を申し上げているところです。まだ具体的にこうしますというようなところは内部でも決まっておられませんし、これから皆さんの意見なども踏まえながら、計画をつくっていきたいと思っています。

○会長

バス事業者の皆さん方のご意見をお願いいたします。

○委員

資料7の方針2にポイントを絞って3点お話ししたいと思っています。

まず、方針2②、バス乗降所の再編・集約化については、1回目の会議でもかなりの方からご意見が出ておりましたが、三宮の駅周辺は乗り場が非常に分散してわかりにくいという点が泣きどころであります。

3回目以降の議論の対象に上げていただきたいということで、参考までにお話ししますと、実は今新宿駅の南口が三宮周辺と同じような状態になっており、利用者から不評を買っています。平成28年度の春を目途に、国の直轄事業として、JRの線路敷きの上に人工地盤をつくって4階建てのターミナルビルをつくります。そこへは高速バスとタクシーも乗り入れ、これを全部包括して利用者に非常にわかりやすい計画が進んでおります。非常に投資額も大きいですが、費用対効果で効果のほうが大きいと国と東京都が判断して、今現在進んでいます。これが一つの事例です。

それから、同じく②、新しい交通の導入の検討についてですが、LRT、BRTを含めていろんな議論がありますけれども、全国の事例を見ますと、市電が走っていた後とか、既に軌道敷きがあって、それをLRTに組みかえていったというのが成功事例です。新たにLRTを走らすというのは非常に投資額がかさみますし、実現の可能性は低いと見ておりますので、比較的少額の投資で済むBRTをお勧めしたいと思います。実は全国のBRTで成功しておりますのは、筑波、藤沢、岐阜、そして三田、この4事例しかありません。問題は、それぞれ大学のキャンパスがあるということです。大学のキャンパスがあって、大量輸送をやっているところにのみ連節バス、BRTを導入して、成功事例として残っています。三宮を中心軸に考えますと、ポートアイランドに大学のキャンパスがありますけれども、残念ながら、既にポートライナーがあります。果たして神戸市でBRTを導入するにしても、まず前提条件は道路の幅員ですから、その辺がどうかと思います。

それから3点目ですが、これはあくまで個人の意見としてお聞きいただきたいんですが、関西圏の人は、三宮はどこだということは知っていますが、首都圏の方はほとんど知りま

せん。神戸は皆さんご存じです。ただ、三宮が中心地であるというイメージはありますけれども、実際どこだというのはほとんどの方がご存じない。神戸市の提案で六つの駅を一つのサークルで一元化した形で神戸の駅としてとらめたいという考え方は賛成ですが、駅名を変えるのは非常に費用がかかります。しかし、神戸、そして中心が三宮だと、大阪、中心が梅田だと、こういう形に変えられるものなら、ぜひ検討の課題の俎上に上げていただきたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

この構想は交通アクセスの上で非常によいと思っております。また、バスとタクシーが連携するような空間をつくっていただけたらと思っております。バスターミナルも問題ある状況ですし、タクシーも場所的にもあれでいいのか、また500メートルの範囲内ならば、生田新道の駐車問題など、いろんな問題が再開発の対象としてあがります。タクシーの問題も、位置づけていかなければいけないと思います。

タクシーの場合で言うと、駅ビルをどこまでするかによって、挟んで裏通りが両方ありますので、分散するなど、いろいろな方法が考えられるのではないかと思います。有効利用の中では協力もしないといけません、災害のときに大量輸送のバスではどうもできないことがあります。タクシーというドア・ツー・ドアの輸送だからできることがあると思います。またバリアフリーの問題、UDの問題、高齢者問題などいろいろある中で、高齢者社会でございますので歩行者だけではなく、車というものがこれからは大事になってくると思います。その中における駐車場問題、いろんなものを考えていただいて、タクシーをどう位置づけるかを考えていただきたいと思います。

○会長

ありがとうございました。

○委員

バスの集約は非常に結構なことだと思います。ただ、その場所が問題でして、特にリムジンバスは外からのお客様がたくさんおられますので、外からの人にとってもわかりやすい場所に集約していただきたいと思います。

それともう一点は、同じく外から来られた方、特に観光で来られた方については、やはり神戸らしさというのは非常に大事でございます。神戸らしさと言うと、例えば海と山とか、中華街とか、異人館とかいろいろありますが、特に海と山をとってみても、どこに行けばよく見えるかわからない。もちろん住んでいる方は肌で感じておられますから、絶えず海と山を認識されていますが、外から来られた方にとって、どこで感じられるかわかりません。例えば市役所の展望台、非常にすばらしい眺望があります。例えばハーバーランドとか、ポートアイランドのしおさい公園も海と山が非常によく見えるところです。しか

し、そういう場所がよくわからない、どう行っていいかわからないので、三宮をおりたらそこへ誘導するような仕組み、仕掛けをつくっていただきたいと思います。

本当は、三宮をおりたときに、海と山を感じられるようなことがあれば、理想だと思います。先ほど眺望スポットは別につくらなくてもいいというご意見もございましたが、外から来た方にとっては、三宮でおりて、そういった海と山が見られるような、感じられるような仕掛けがあったらいいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

やはりコンセプトワークを皆さんでいろいろやっても、網羅的な、あるいは総合的な部分を越えないと思います。この中から神戸らしさをたどっていくのも、これだけのメンバーでは厳しい部分もあると思います。

そのときに、この三宮という場所性を生かした、このコンセプトはHowです。どうやって空間づくりをしていくのかというシステムのHowと申し上げますが、Howを提案しながら、逆に資料7をもう少しもんでいくというような形も一つ議論の方法としてあると思います。要するに具体的な空間に即して、そこで何をやっていくのかという構想を描きながら、それが資料7のコンセプトの中でどれぐらい重視されて、どれは少し抑えておこうかというようなことがもう少し選択的にできるのではないかと思います。あるいは、この資料7では、総合的な視野に立つものですから、どうしてもエリアを限定しないとなっていますが、このエリアはこれを特化しようということも絶対言えていると思います。そういう点では、神戸らしさの一つの特徴のベースになります神戸のコンパクトで海と山が近いというところに対する空間づくりのシステムとしてのHowを、そのHowに関しては、先ほどから出ていましたスケジュールを、そうやって具体的な議論をしていくことによって、皆さんのより鋭い意見であるとか、共通認識とかがより深くなると思います。そういう点でいいますと、先ほど再整備構想が第4回の会議で次々回ぐらいに提示されるとしますと、その後すぐパブコメを行い、最後まとめてしまうというのはやや心配です。このたたきの段階で、皆さんからのHowに関する意見をいろいろもらうことによって、この会議で2回ぐらimoreからパブコメを行わないと、議論の進め方として、下手して空中分解したまま行ってしまったら、ちょっと怖い部分がある。もちろんパブコメを経て最終的にまとめるわけですが、ある程度この会議として、これが一つのイメージですという形でパブコメにかけないと失礼ではないかと思います。このたたき台自身がHowだと思います。整備計画そのものがHowだと思いますので、それを場に即した形で早目に提案していただくことによって、議論を重ねることによって、資料7の文言整理していく、先鋭化するもの、あるいは標準化するものを少し仕分けしていくという議論でもよるしいのではないかと私は思います。

○会長

どうもありがとうございます。

○委員

エリアマネジメントについて、ビジネスなのかつき合いなのかという意見があり、大阪でのご経験からそういう話になったんだろうと思います。これは仕組み次第だと思います。エリアマネジメントが重要というのは、ほぼ皆さん共通した視点だと思うので、これが具体的にどんな姿をしているのかについては、次の段階かなと思います。

特区、B I Dなど、さまざまな形があると思いますので、これが三宮型、神戸型のエリアマネジメントの仕組みだみたいなことがこれから皆さんのご意見の中でできてくればいいと思います。

もう一つは、できるところから最初の一手を踏み出してみるというのは、大変重要だと思います。震災から20年で、動きが少なかったのが都心ではないかと思います。世界の都市を見ていまして、都心というのは常に動いています。そういう意味では、やはり手をつけられるところから動きを示していくというのが、市民にとっても、神戸は動いているという安心感にもなりますし、外から神戸がダイナミックに変化しているということを見てもらえます。そういう意味での神戸の競争力の象徴ではないかと思いますので、ぜひともそのような視点で、この会を進めていただきたいと思います。

○会長

本日も大変貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございます。

私も一言だけ最後に申し述べさせていただきます。今まで出てきた意見、神戸の都心の『未来の姿』検討委員会、300人会議、本構想会議も含めまして、大変多くの意見を事務局が五つの方針という形でまとめあげられました。足りない部分があるのではないかと、ほかの都市との違いが見えないとか、抜けている分野もあるのではないかと、いろいろご意見はいただきましたが、とりあえずたたき台としてこういうようなものをつくっていただいたおかげで、取りまとめに向けて一歩進めたかなという感想を持っています。

ただ、こうした方針だけでは具体的なイメージが湧きませんので、文言だけでなく、地図とか、パースとか、そういうビジュアル的な表現も含めまして、主要なスポットにつきましても、我々にとって具体的なイメージが浮かびやすいようなものを次のステップとしてぜひつくっていただいではどうかと思います。例えば、三宮の駅におり立って、まち中にどのような形が出ていくのかという、また交通機関の間での乗りかえも含めて、そういった動線も含めて、具体的なイメージをこの方針に基づいてつくっていただきたい。その中で、ぜひ皆さんがおっしゃっているような、神戸のオリジナリティ、神戸らしさというのを盛り込んでいただくことが必要です。ある意味では方針だけでは、これぞ神戸というのはなかなか出しにくいとは思いますが、どのような空間を実現させるのか、またその他対策も含めて、構想の中でどのようにオリジナリティを出していくかというところ

に、ぜひご配慮いただければと思います。

それから構想をつくることが目的ではなく、やはり実現に向けてのロードマップが大事です。立派な構想ができて構想倒れにならないように、ぜひ三宮エリアにおいて有効活用できる資産も含めて、実現の道筋をきちんとロードマップとして示していただくという、最初の目次案には掲げていただいているのですが、その点にも十分ご留意をいただければと思います。

大変長時間にわたりまして、熱心にご議論いただきましてありがとうございます。引き続き、ご協力のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、議事進行を事務局のほうにお返しいたします。

4. 閉会

○三島都心三宮再整備担当部長

委員の皆様、大変長時間にわたりまして貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。本日いただいた意見をまた整理させていただいて、今後進めていきたいと思っております。本日いただいた意見の中には、方針が一般的だというお話とか、もっとハードの部分を進めていくというお話もございますので、その辺については、さらに進めていきたいと思っております。そのような中、11月16日にシンポジウムということで、これにつきましては、本日出席いただいております加藤委員の基調講演を初め、8つのテーマでにぎわいをどう生み出していくのかとか、産業部分をどうしていくのか、あと交通面、そういうほぼ具体的なアイデアをいただく、Howをどうしてくかという前提になるものを開催して、その辺でご意見をいただきたいと思っております。その辺を踏まえて、本日いただいた意見、シンポジウムの意見、並びに事務局のほうで作業を進めていきますとご相談させていただきたいことが発生してきていますので、その辺につきましては、また委員の方、個々にご相談に伺いましてお話をさせていただいて意見をお聞かせいただきたいということもございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

そのような中で、次回第3回の開催時期につきましては、その作業の進捗状況を踏まえて、決まりましたら事前にお知らせをさせていただきたいと思っております。

また、本日こういった非常に熟度の高い議論していただきましたので、言い足りなかったというものがございましたら、お手元の資料で指定の用紙なりに記入をしていただきまして、事務局のほうにファクスなりでお知らせいただけたらと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、最後に住宅都市局の山崎より一言ご挨拶させていただきます。

○山崎局長

住宅都市局長、山崎でございます。閉会に当たりまして、一言御礼を申し上げたいと思

います。委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、お集まりをいただきまして、長時間にわたりまして熱心なるご議論をいただきましたことを厚く御礼を申し上げたいと思います。本当にきょうも貴重なご意見をたくさんいただきましたので、先ほど三島のほうから申し上げましたように、いただいた意見を十分踏まえまして、また次回、我々の考え方というのをまたお示しをさせていただきまして、議論をまた深めていただきたいというふうに思っております。何とぞ次回以降もよろしくお願いを申し上げまして、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

○三島都心三宮再整備担当部長

それでは、本日、第2回三宮構想会議につきましては、これをもちまして閉会といたします。皆さん、どうもありがとうございました。